

# News Letter 2004 Vol. 8

## 腎臓移植希望者選択についての経過報告とお詫び

(社)日本臓器移植ネットワークは、腎臓移植希望者の選択が適正にできていなかった事実を内部調査によって判明し、自ら公表し、謝罪いたしました。2004年1月18日の会見からその後の経過と内容をホームページで公表・掲載してまいりましたが、2004年5月6日に、すべての確認作業を終え、最終報告を厚生労働大臣宛に提出いたしました。

今回の事故を真摯に受け止め、かかる事態が二度と起きないように社団全員が一丸となって、臓器のあっせん機関として信頼回復に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## 2003年 献腎移植臓器配分結果

2003年の腎臓提供数は77件、移植数は136件（1腎のみ移植4件）であった。そのうち、摘出されたが移植に用いられなかった7件を除いた70件（135件の移植：脳死下腎臓提供での臍腎同時移植1件を除く）を対象とし結果を分析した。

提供された腎臓のうち、99件（73.3%）が提供施設と同一県内の移植施設で移植が行われた。

16歳未満の小児待機患者に移植が行われた件数は13件（全体の9.6%）であった。

総阻血時間は、最も長い事例が30時間02分、短い事例が4時間50分、平均総阻血時間は12時間25分であった。

受腎者の待機日数は、最も長い事例が9,624日（26年128日）、最も短い事例が33日（33日は16歳未満の小児移植事例。16歳以上の移植事例で最も待機日数が短い事例は2,725

日）、平均5,117日（14年4日）であった。

受腎者の透析期間は、最も長い事例が10,772日（29年180日）、最も短い事例が539日（1年174日）で、平均透析期間は6,086日（16年242日）であった。

受腎者の年齢は、最年長者が63歳、最年少者が2歳、平均年齢は44.03歳であった。

生存率93.3%（125/134）、生着率は86.6%（116/134）であった（2004年3月末）。

2002年1月10日より腎臓移植希望者（レシピエント）選択基準が改正され、地域、HLA型のミスマッチ数、待機日数ポイントの合計点数が高い順に選

ばれることから、透析期間、および待機期間の長い待機患者が選定されている。また、16歳未満の小児待機患者については14点のポイントが無条件で加算されることから、著明な小児腎移植件数の増加が見られた（2002年10名：全体の8.1%、2003年13名：全体の9.6%）（図1）。

図1

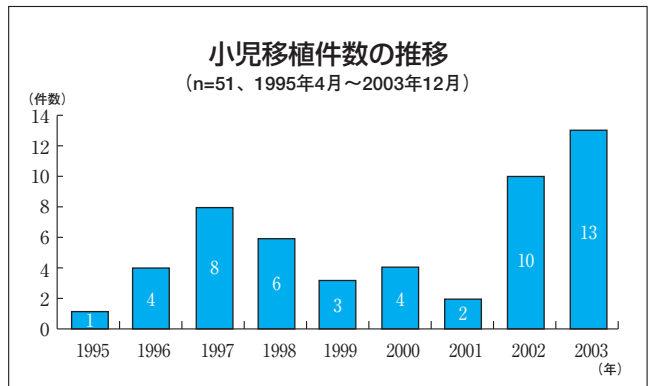


表1 ブロック別・年別腎提供/腎移植件数

(提供：n=709、移植：n=1,324、1995年4月～2003年12月) \*95年は4月～12月までの集計

		95年*	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	合計
北海道	提供	3	1	3	2	1	4	1	1	1	17
	移植	5	5	6	3	1	6	3	0	0	29
東北	提供	2	1	0	1	5	2	1	3	2	17
	移植	4	2	2	7	13	4	3	5	4	44
関東甲信越	提供	13	30	23	25	29	25	29	23	20	217
	移植	25	57	44	44	55	49	63	45	38	420
東海北陸	提供	20	35	22	24	19	25	29	17	21	212
	移植	35	57	43	44	30	41	46	34	34	364
近畿	提供	15	12	16	5	13	4	8	6	11	90
	移植	30	28	28	15	25	13	15	11	21	186
中国四国	提供	5	9	11	18	17	10	7	8	9	94
	移植	8	16	25	24	24	20	10	16	14	157
九州沖縄	提供	4	10	7	8	5	5	4	6	13	62
	移植	11	18	11	12	10	13	11	13	25	124
合計	提供	62	98	82	83	89	75	79	64	77	709
	移植	118	183	159	149	158	146	151	124	136	1,324